

敦賀発電所1号機の原子炉手動停止について  
(原子炉再循環ポンプメカニカルシールの機能低下)

当社、敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉：定格電気出力 35万7千kW）は、定格熱出力一定運転中のところ、3台ある原子炉再循環ポンプのうち1台（B号機）のメカニカルシール（軸封部）\*<sup>1</sup>でシール機能の低下傾向（シールリーク流量の増加傾向等）が認められました。

本事象は、原子炉再循環ポンプの運転に支障を来すものでないため、状況を監視しながら運転を継続しておりましたが、予防保全の観点から、当該メカニカルシールを予備品に取り替えることとします。

なお、C号機のメカニカルシールについても、極僅かなシールリークがみられることから、念のため取り替えることとします。

このため、平成15年12月28日9時から出力降下を開始し、13時頃発電停止、同日20時頃に原子炉を手動停止する予定です。

また、メカニカルシールの取替作業が順調に進捗すれば、平成16年1月2日頃に発電を再開する予定\*<sup>2</sup>です。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。

\* 1 : メカニカルシール（軸封部）とは、ポンプ内の冷却水がポンプ主軸に沿ってポンプ外部に出ないようにするために設けられているものである。

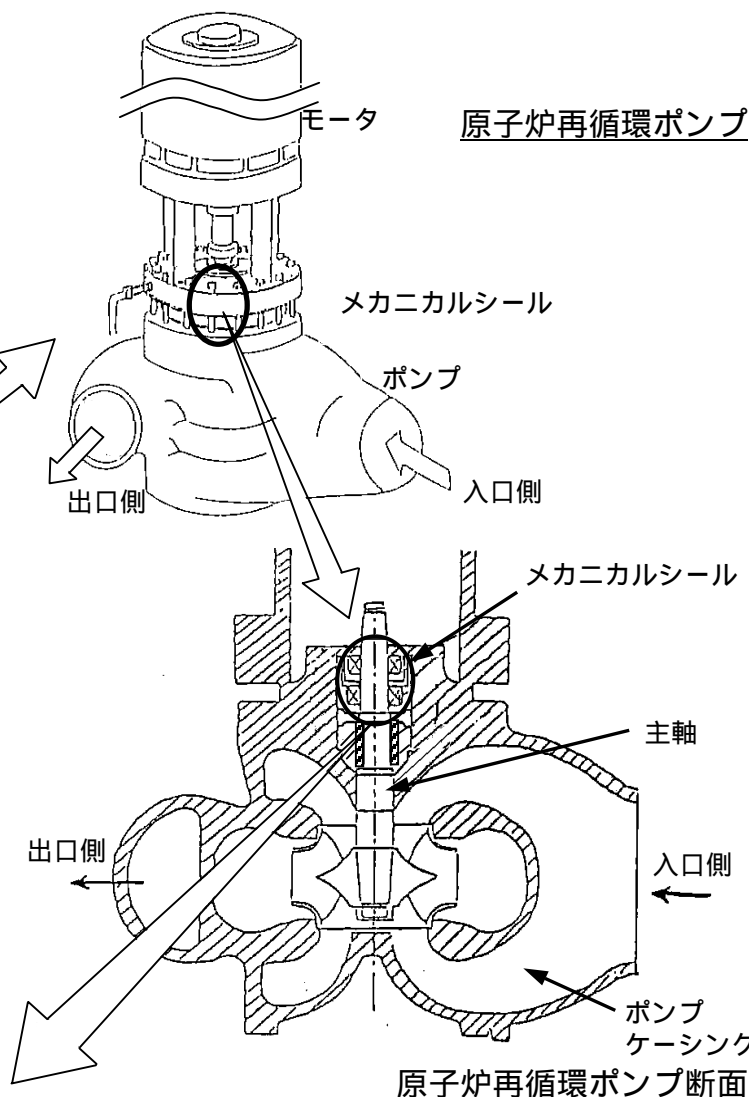
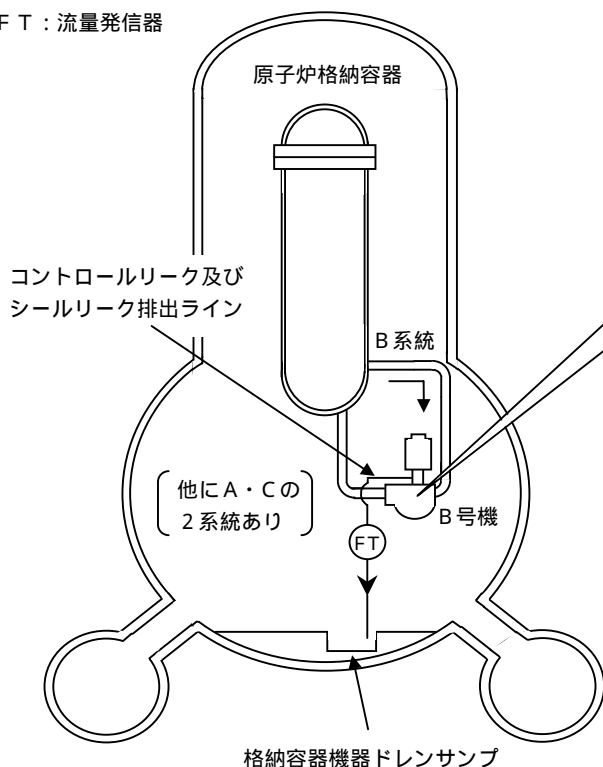
\* 2 : メカニカルシールの取替作業には、約3日間かかる見込みであるが、作業の進捗状況によっては、多少延びる可能性があり、それに伴い発電再開の予定は変更される。

以 上

# 原子炉再循環ポンプメカニカルシール部状況説明図

## 系 統 概 略 図

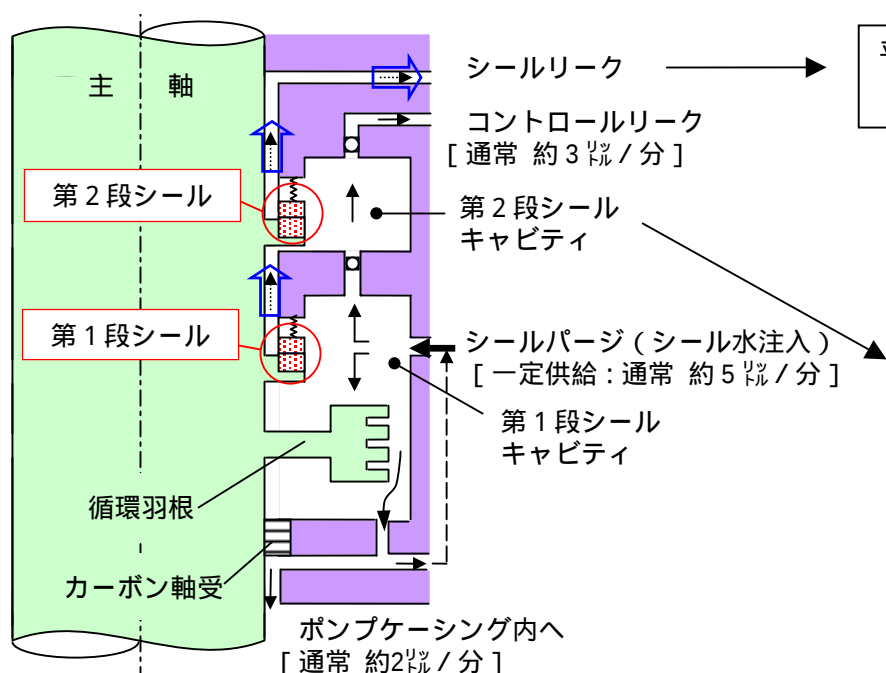
FT：流量発信器



## メカニカルシール概念図

（モーター側）

B号機



平成15年8月中旬より流量増加  
[通常 約0.2㍈/分以下→約0.75㍈/分]

第2段シール機能低下

平成15年12月下旬より圧力増加  
[通常 約3.5MPa→約3.7MPa]

第1段シール機能低下

（ポンプ側）